

大学運動部におけるマネージャーの言動が

競技者のモチベーションに与える影響に関する研究

スポーツ経営組織学ゼミナール 1315052 藤原 紗耶

1. 研究動機・研究目的

スポーツ選手や運動部に所属する学生は、監督、コーチ、顧問の先生、先輩や同期、後輩など様々な人からの影響を受けていると考えられる。その中でもマネージャーはドリンク作り、タイマー、用具の準備・片付け、声かけなどをこなす役割を担っており、監督やコーチなどとは異なり、部活動においてサポーターとしての役割を担っている立場である(伴・高木, 2015)。このように競技に関して選手との直接的な関わりの少ない立場のマネージャーであるが、多くの運動部においてマネージャーは存在する。このことから選手との直接的な関わりは少なくはあるが、マネージャーも選手のモチベーションに何らかの影響を与えているのではないだろうかと考えた。そこで本研究では、大学運動部に所属する競技者のモチベーションに影響を与える要因、マネージャーが競技者に与える影響、そして理想のマネージャー像についてを明らかにすることを目的として調査していきたいと思ひ、本研究に至った。

2. 研究方法

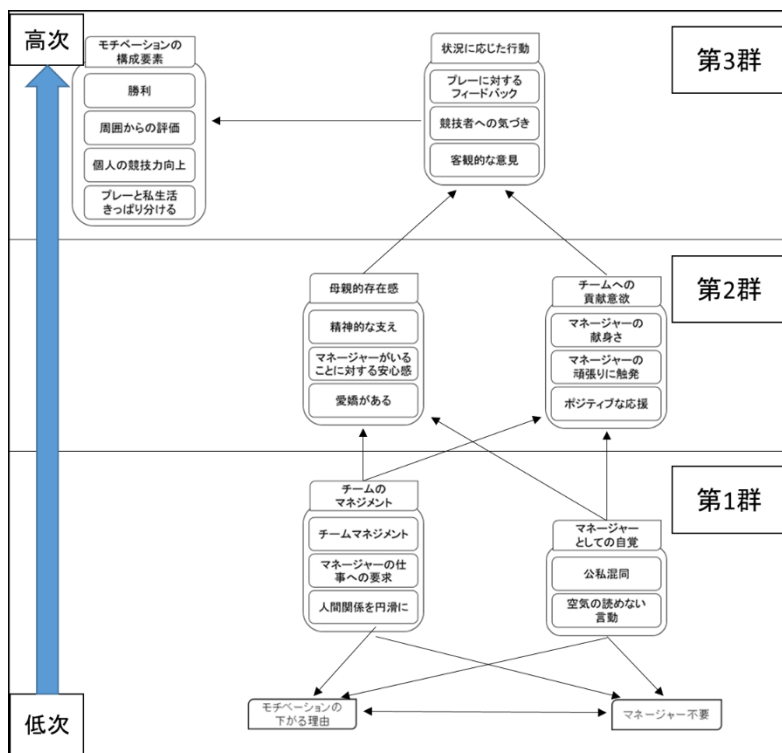
【調査対象】大学生 (n=8)

【調査期間】2018年10月中旬～下旬

【調査方法】自チームのマネージャーについてのインタビュー調査(仕事内容や理想像など)を行い、KJ法を用いて分析

3. 主な結果と考察

KJ法から、「モチベーションの構成要素」「状況に応じた行動」「母親的存在感」「チームへの貢献意欲」「チームのマネジメント」「マネージャーとしての自覚」「モチベーションの上がる理由」「マネージャー不要」の計8つの大ラベルが完成し、以下のように図解化した。下図を見て分かるように、8つの大ラベルは1~3群に分けることができ、上に行くに従って競技者のモチベーションに強く影響する要素であると考えた。第1群、第2群を満たすことで第3群となると考えることから、競技者それぞれ求める理想像は違っても、第3群的要素があることが競技者から見た理想のマネージャーであると考えた。以上のことから、大学運動部におけるマネージャーは、「状況に応じた行動」に注意して行動しなければならないと考える



4. 結論

- ① 競技者のモチベーションには、「勝利」「周囲からの評価」「個人の競技力向上」「プレーと私生活をきっぱり分ける」という要素が深く関係している。
- ② 競技者から見てマネージャーには「状況に応じた行動」「母親的存在感」「チームへの貢献意欲」「チームのマネジメント」「マネージャーとしての自覚」の計5つの要素があり、全てが満たされると競技者のモチベーションを高める存在となることができる。
- ③ 「状況に応じた行動」「母親的存在感」「チームへの貢献意欲」「チームマネジメント」「マネージャーとしての自覚」の計5つを全て満たした存在が、理想のマネージャーである。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本論文の執筆にあたり、ご協力、ご指導、ご鞭撻いただいた多くの方々に改めて感謝の意を表し、謝辞とさせていただきます。誠にありがとうございました。特に、お忙しい中、本論の執筆においての指導だけでなく、部活動や就職活動においても多くのご指導を頂きました水野基樹准教授に心から感謝を申し上げます。